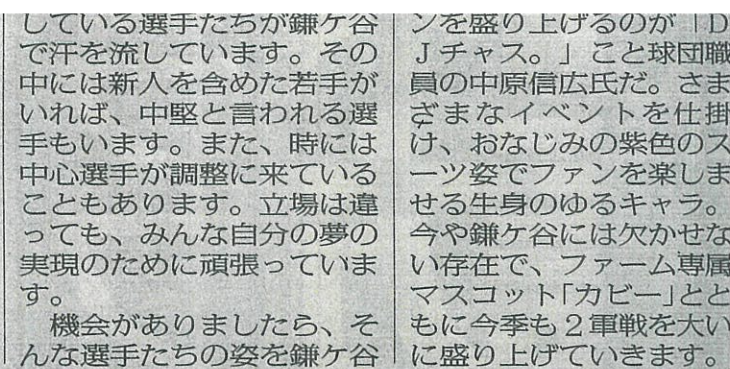




渥美

勝負

早大では野手で勝負する渥美
 (撮影・竹内敦子) ①昨春の
 全道大会決勝で9回途中3失点
 と好投 ②1回戦では2ラン

早大進字 野手で勝負

晴れ晴れとした思いで、渥美は卒業の日を迎えた。2度の延長サヨナラ勝ちを含めて総力戦でつかんだ昨春の全道優勝の立役者の一人。背番号3の「春季全道V腕」は決勝の投打の活躍に加え、一塁手として出場した1回戦（対滝川西）でも右越え2ランと存在感を見せた。「田子園には行けなかったが、望んでいた目標の一つが達成できた。満足できる3年間」。胸を張って、札幌第一を巣立つ。華中学時代にテレビで早慶戦を見て、華やかさ、伝統、雰囲気、憧れ、目指してきた。札幌第一を選んだのは、文武両道で夢をかなえるため。昨春は神宮でリリーク戦を銅戦して決意を固めた。「野球は相手との駆け引きがあるが、勉強は自分次第。くじけることなくやり切れた」。練習後も毎日1時間以上机に向かってきた。

「投手と野手の両方では頭打ちになると、早大では野手専念を決めた。自信になった一打がある。昨春キャンプの練習試合で、智弁和歌山・武元一輝(3年)から放った右越え本塁打だ。プロから注目され、将来のメジャー行きを視野に米国の大学進学を目指す右腕の力一打を捉えた。「当時からいい投手と知っていた。もっと打ちたい」と向上心が生まれた」。早大では出塁率を残せる打者を目指し、「リーグ優勝に貢献できるように、神宮の打席に立ちたい」と意気込む。

合格後に一時、レベルの高さに入部を迷った時期もあったが「後から後悔はしたくない」と初志貫徹を決めた。「最後まで、夢だったところできり切る。それで成長できるはず。今は『やるぞ』という気持ち」。渥美は、これから始まる4年間に思いをはけたい。

▼**菊池雄人監督**(50)
粘り強く我慢強さがある、それが春(の全道)につながった。いい意味で先を見ることのできる選手。伝統ある早大で頑張ってもらいたい。

レベルの高さに不安も「今は“やるぞ”という気持ち」

部に入部予定。「オールスターの選抜チームが甲子園で戦う。そこを目指し、選手として甲子園に立ってみたい」と話す。春季全道大会の1番打者・村田陽和外野手は札幌大でプレーし「1年目からベンチ入りし、神宮を目指す」と意気込む。

25日に行われた神戸戦の前
半ドリブルを仕掛ける馬場。
2戦連続のスタメンを狙う

A soccer player in a red and black striped jersey is running on a green field. The player is wearing a black headband and white socks. In the background, there is a large advertisement for 'AiDE' with a red 'i' and blue 'A' and 'DE'. A soccer ball is visible in the bottom right corner.

4日新潟戦
前節前半で交代
「満足してない」

コンサドーレ札幌
DF馬場晴也(26)が
試合連続の先発出場
意欲を示した。チー
はホーム開幕戦だっ
25日の神戸戦で1-
の敗戦。次節4日の
瀧戦(デンカS)で
季初勝利を目指す。
「45分しか出られ
なかったし、自分のプ
ーには何も満足して
い」。J2東京Vか
移籍した馬場は18日
開幕・広島戦に途中
場してJ1デビュー
飾ると、神戸戦でJ
初の先発出場。激し
守備やセカンドボー
の回収など特長は出
たが、前半で交代し
分が真ん中でもっと
ールを受けてパスを
ばければ…。反省は
い」と振り返る。「
れをバネにさらに成
したい。もう一度ス
メンで出て、この悔
さを晴らしたい」と
を込めた。

昨季までJ2で
い、今季6年ぶりの
1を戦う新潟を熟知
ている。「そこはチ
ムに伝えつつ、良い
備をしたい」。対戦
験がある馬場は札幌
大きな強みとなりそ
だ。